

トタン茅葺の民俗誌

—生き続ける茅葺民家の特徴—

春崎 沙織

[指導教員：武庫川女子大学准教授 鎌田 誠史]

キーワード：トタン茅葺屋根、茅葺民家、金属屋根

1. 研究の背景

トタン茅葺とは、茅葺民家に金属板が被せられたもので、その素材は鉄板や銅板、ステンレスが使われている。日本の茅葺民家のほとんどは、屋根にトタンなどの金属板による覆いが被せられている。しかし、そのトタン茅葺の中に茅葺屋根が存在する事は一般的に知られていない。民家は、社会情勢や住む人の経済状況によって茅葺屋根の存続し続ける事は厳しくなった。しかし、この状況の中でも例えば三田市に約550棟、神戸市に約1000棟もの茅葺民家が残っている。しかし、茅葺を葺き替えるための材料がなく、生産される仕組みもなくなったため、トタン茅葺にする事で日本の茅葺民家の消滅を防いで来たと考えられる。つまり、トタン茅葺は往時の茅葺屋根が凍結保存されているとも言え、トタン茅葺は建築史料としての価値の高い往時の茅葺屋根を残して建築的知見や技術を後世に伝えるための有効的な手段となっている。

しかし、このようなトタン茅葺屋根がいつ、誰によって、どのように葺かれ、そしてどのように普及し、どのような特徴があるかについてはほとんど明らかにされていない。



図1 トタン茅葺

2. 本研究の目的

本研究ではトタン茅葺について、ヒアリング調査と文献・資料調査、現地調査から特に屋根の特徴を中心にその種類や材料とデザイン、地域性、工法を明らかにする事で、農業の仕組みが変化し、茅葺屋根の材料が入手しにくい、今という時代を象徴する茅葺民家の特徴として明らかにする事を目的とする。

3. 研究方法

トタン茅葺の特徴について、①茅葺職人・板金職人・住民へのヒアリング調査、②資料調査、③現地調査を行い「トタン茅葺とは」「トタン茅葺の種類」「屋根を葺く材料とデザイン」「トタン茅葺の葺き方」「地域性」について明らかにする。

4. 結果および考察

4-1 調査結果

(1) トタン茅葺とは

茅葺職人さんヒアリング調査	板金職人さんヒアリング調査	住民さんヒアリング調査
・トタン茅葺屋根は茅葺屋根を守ってくれているもの ・社会の仕組みや農業システムが再構築された時に茅で屋根を葺きなおすための保護的な機能を担っている	・元篠山の茅葺職人の板金職人。 ・屋根を葺きなおす材料がなくなった時にトタン茅葺を葺き始めた。	・茅葺屋根の材料がなくなったり、茅葺職人さんが人材不足によりいなくなったりした時の救済処置としてトタンを被せた。

(2) トタン茅葺の種類

茅葺職人さんヒアリング調査	板金職人さんヒアリング調査	文献調査
・波板トタンで葺かれたもの ・四角くカットした板金で葺かれたものが亀甲張り ・「ルーフィックス」という名称は商品名である ・「レインボー葺き」は「ルーフィックス」ほど普及はしていない	・ひし葺き、よろい葺き、瓦がた葺き、一文字葺き、波板葺きなどがある ・正方形に加工された板金で葺かれたものは「ひし葺き」 ・長方形に加工された板金で葺かれたものは「よろい葺き」 ・加工された板金の形によって名称が変わる ・「瓦がた葺き」は瓦の形に工場加工したものを使い葺いており、鬼瓦部分も工場で作られている	・横長の鉄板を縦に重ねる手法を用いたものを「一文字葺き」 ・「レインボー葺き」と「ルーフィックス」は既製品 ・トタン波板を利用したものが「波板葺き」 ・「ひし葺き」が多く普及しており、特徴として鉄板の付け根に雪止めがある

(3) 屋根を葺く材料とデザイン

茅葺職人さんヒアリング調査	板金職人さんヒアリング調査	住民さんヒアリング
・茅葺屋根に直接、トタンを被せる方法は日本オリジナル ・トタンは対応力が高く、曲線の屋根も直線の屋根も作る事が出来るため、茅葺屋根の形を表現できる	・トタンを被せ始めた当初は波板トタンを使用し、今では銅板やステンレスも使用されている。 ・葺き方は施主の方の好みや意向が大きく影響 ・トタン茅葺には千木などは構造上不要だが、見た目が同じになるようトタンで作られた千木を乗せる民家がある。 ・以前は、トタン茅葺に葺き替えた後も色の変化が少ないように茅葺屋根の色と似た茶色で塗装していた	・トタン茅葺のデザインは施主の方の好みや下屋との調和が影響する。 ・瓦の下屋を設けたので葺き替え時にトタン茅葺も瓦がたで葺いている人もいる。

(4) 地域ごとのオリジナル

茅葺職人さんヒアリング調査	板金職人さんヒアリング調査
・京都府綾部市の箱棟や山形県田代町の軒の薄さなど棟の形や軒の作りがトタン茅葺になっても農家の形に表れ、風土に根ざした風景になっている。	・京都府の南丹市美山町や綾部市では波板葺きが多く、京北ではひし葺きが多い。 ・隣近所と同じトタン茅葺にする人が多い。

(5) トタン茅葺の葺き方

茅葺職人さんヒアリング調査	板金職人さんヒアリング調査
・トタン茅葺の下地には東立している。 ・昔のトタン茅葺では東が杭になっており茅葺屋根を貫通して屋根の下地の丸太に五寸釘で打ち付けてあるものがあり、これは茅葺職人さんの仕事かもしれない。 ・トタン茅葺を葺く時の下地の隙間が大きく屋根が頭でっかちなものがある。	・トタン茅葺において形を左右するのは下地であり、トタン茅葺の葺き方によって下地の間隔が違う。 今回、ヒアリングに行った板金屋さんでは下地は茅葺の垂木から直接縄をとって作っているため茅葺屋根の形そのままに葺き事が出来るが、下地の作り方は板金屋さんごとによって違い、大工さんに外注しているところもある。 ・トタン茅葺も茅葺と同じくトタンを葺いていく時は丸太の足場を掛けて下から葺くが塗装の際にはロープを吊るすか雪止めを利用して行っている。

(6) トタン茅葺のある地区

住民さんヒアリング調査	現地調査
・茅葺職人さんの減少や屋根を葺く材料の調達が難しくなった際に屋根にトタンを被せた人や下水設備ができた際にトイレを家の中に引き込みリフォームし、トタン茅葺を被せた家、建物が傷んだり、歪んだりしているため屋根だけを変えるのではなく新築しているところがある。	・大河内地区の居住地域には、21件のトタン茅葺があり、種類も豊富だった ・「瓦がた葺き」「ひし葺き」「レインボー葺き」「一文字葺き」「波板葺き」が確認された ・「ひし葺き」が12軒と一番多く、次いで「瓦がた葺き」が5軒、「レインボー葺き」

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域内でも雪の多く降るところでは茅葺屋根の破風が閉まっており、屋根に上がれないため瓦が普及した時に瓦葺に建て替えた可能性がある。 ・茅葺の葺き替えが難しくなった時に茅葺を保全しようとした人がいた。 ・下水を整備した際にトイレを家の中に引き込みリフォームした家は二階がない今のハウスメーカーみたいなものであるため、間仕切りが土壁や障子でも良い人などは屋根にトタンを被せ住んでいる。 ・建物自体はしっかりしている家や瓦が普及した時に屋根の勾配を変えて瓦屋根に変えて住んでいた。 ・建物が傷んだり、歪んだりしている家は内装をいじったり、屋根勾配を変えて瓦屋根に変えずにハウスメーカーなどで新築している家が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2軒、「一文字葺き」が1軒あり、「波板葺き」も1軒あった ・普通の波板ではなく角波板が使われている
---	---

4-2 考察

(1)トタン茅葺とは 屋根に使用する茅の材料不足がトタン茅葺となった大きな要因と考えられる。トタン茅葺を葺き始めた理由はトタン茅葺とは一時的な救済処置としての対応だったが、屋根に金属が被る事で結果的に往時の茅葺屋根を残す事に大いに役立ったと言える。

(2)トタン茅葺の種類 トタン茅葺の種類は、①波板葺き②ひし葺き③一文字葺き④よろい葺き⑤瓦がた葺き⑥レインボー葺きの6種類であると考えられる。

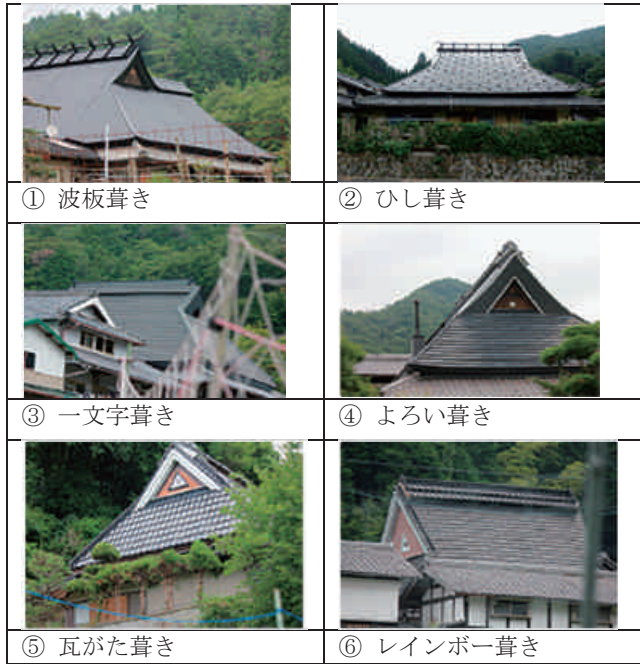


図2 トタン茅葺の種類

(3)屋根を葺く材料とデザイン トタン茅葺は、下地や板金の打ち方、切り方によって変幻自在であり、それぞれの家での個性を出す事も可能である。しかし、日本において、トタン茅葺にする場合、茅はそのままに茅葺屋根の上に直接下地を作り、その下地の形が即ちトタン茅葺の形となる。つまり、トタン茅葺がどんなに奇抜なものになっていても、茅葺屋根の上に被せられているため、その中にはもともと地域にあった茅葺屋根が昔の形のまま凍結保存されていると言える。

(4)地域ごとのオリジナル トタン茅葺が変わっても地域ごとのオリジナルが残る事になった可能性がある。茅葺民家は

地域や時代によって変化が生まれるが、その変化した茅葺民家の屋根に金属板を被せる事によってオリジナルの茅葺民家を残していく事ができたのはトタン茅葺の良いところであり、特徴であると言える。

(5)トタン茅葺の葺き方 トタン茅葺は、金属板の上に直接下地を作り、その下地に直接板金を打ち付けて葺いていく。また、トタン茅葺を葺くときの足場は、茅葺を葺くときとは異なり屋根から浮かして組む。また、トタン茅葺は板金を葺くための作業スペースが必要だが茅葺では茅を抑えるために竹を踏む必要もあるため、茅葺に直接足場を吊るす方が作業をしやすいためであると考えられる。

(6)トタン茅葺きのある地区 大河内地区は水道工事や茅葺職人さんの減少、材料不足などの影響により、建て替えやトタンを被せる検討がされる機会が多かったために、トタン茅葺の屋根が多彩な地域となった。変遷は図3である。

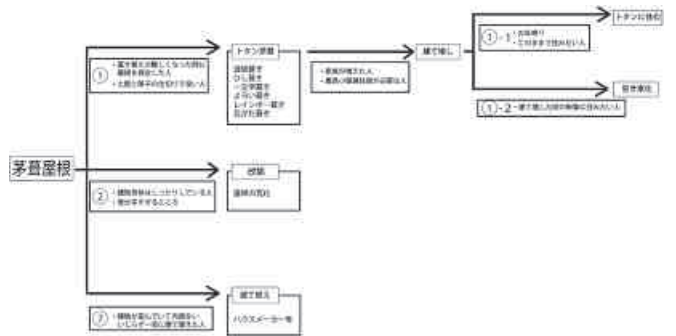


図3 京都府南丹市園部町大河内地区における茅葺民家の変遷

5. まとめ

本研究では、トタン茅葺の種類や葺き方、地域性、京都府南丹市園部町大河内地区のトタン茅葺の変遷等、トタン茅葺の特徴を明らかにした。トタン茅葺は形を自在に変える事ができるが、どんなに変わっても中には往時の茅葺屋根が凍結保存される。したがって、景観地区にも指定されるほど評価が高い茅葺民家を残す上でもトタン茅葺は大いに役立つと言える。

また、今回は、京都府南丹市園部町での調査を主にしたが、神戸市だけでも約900軒ものトタン茅葺が残存するように、各地には地域性を残したトタン茅葺が多く残っている。他の地域でもヒアリングや現地調査をする事で地域によるトタン茅葺の変化や特性がより明らかになるだろう。

注及び参考文献

- ・安藤邦廣:茅葺の民俗学 生活技術としての民家, はる書房, 21-33, 99, 102, 昭和58年12月22日
- ・三田市歴史的景観基礎調査報告, 平成21年3月31日, 三田の茅葺民家
- ・神戸市, 平成27年, 平成27年度茅葺民家建物調査